



日時／令和八年一月二十七日 場所／Nippon 日本特殊工業市民会館 フォレストホール 主幹／公益社団法人熱田法人会
 名古屋市内9法人会合同講演会

許すチカラ

元衆議院議員

金子恵美氏

手話通訳士／川本明彦氏



名古屋法人会のみなさま、このたびはこのような機会をいただきありがとうございます。

本日は「許すチカラ」という、少し重たく聞こえるテーマかもしれませんが、できるだけ難しく考えず、みなさまの日常や経営にも重ねながら、お話しできればと思っています。

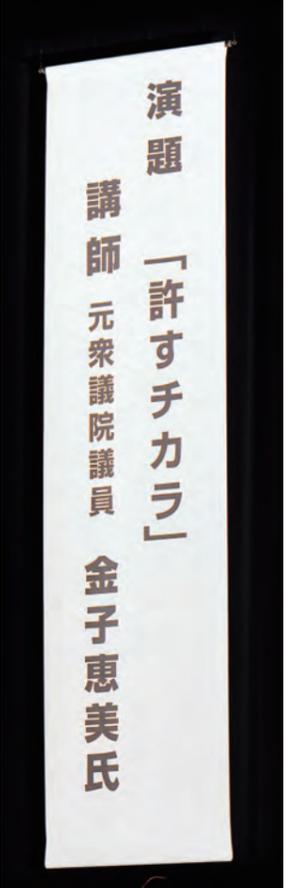
実は今日（公演日・令和八年一月二十七日）、衆議院選挙の公示日でもあります。本来であれば、こうした政治の話は脇に置くべきかもしれませんが、まったく触れずに進めるのも不自然ですので、まずは少しだけ時局のお話をさせていただきます。その後、本題である「許すチカラ」に入っていきます。

時局の中で感じていること

私は以前、総務大臣政務官として、高市総務大臣のもとで仕事をさせていただきました。

高市さんは、当時から官僚が書いた答弁書をそのまま読むのではなく、ご自身の言葉で、赤ペンを入れながら答弁を組み立てる方でした。その姿を間近で見ていると、答弁の安定感や信念の強さに、いざれ大きな役割を担われる方だと感じていました。

今回の解散・総選挙についても、正直、多くの関係者が予想していなかったタイミングでした。少数与党という厳しい状況の中で、政権運営や国会運営の難しさを実感された結果の決断



だったのだと思います。エネルギー、安全保障、財政運営。どれも私たちの生活、そして企業経営に直結するテーマです。だからこそ、この選挙は非常に重要な意味を持っています。ぜひ、みなさまには、候補者の言葉や政策を見極め、ご自身の一票を投じていただきたいと思っています。

さて、少し硬い話になりましたので、ここからは本題に戻ります。

「許すチカラ」

以前、テレビ番組の生放送で、唐突に「どっしたら、そんなに人を許せるんですか?」という質問を受けました。今日は、その問いに対する私なりの答えを、皆さんにお伝えしたいと思っています。

私が考える「許すチカラ」とは、人を信じ直すチカラです。

許すというと、「我慢する」「なかったことにする」と思われがちですが、そうではありません。一度壊れた信頼を、もう一度見つめ直し、相手のこれからを信じるかどうかを、自分で決める力だと思っています。

私の夫は、元国会議員の宮崎謙介です。彼が起こした出来事については、多くの方がご存じだと思います。

彼はもともと経営者出身で、政治の世界に入りました。政治の慣習や空気を知らず、良くも悪くも真っ直ぐで、尖った部分もあった人間です。

男性の育児休業取得を宣言したことも、本人なりに社会を変えたいという想いからでした。



かねこめぐみ氏

1978年、新潟県生まれ。2007年新潟市議会議員選挙で当選。2016年総務大臣政務官に就任。10年間の議員生活を経て、現在、コメンテーター、講師として活動する傍ら企業の社外取締を務める。



しかし、その言葉とは真逆の行動をとってしまった、結果、政治不信を広げることになった。本人は深く反省しました。

そして、彼は自ら議員辞職を決定しました。女性問題で役職を辞める人はいても、議員辞職を選んだケースは、極めて珍しいものです。最後の本会議にも、彼は出席しました。

私は「そこまでしなくてもいいのでは」と伝えましたが、彼は「バッジをつけて送り出してくれた有権者への責任がある」と言いました。

私は、苦しい場面で逃げることなく向き合う彼の姿勢を見たとき、この人は変わろうとしている、と感じました。

許される姿勢

私は、どんなことでも許すべきだとは思っていません。許すかどうかは、許される側の姿勢によって決まるものです。

逃げず、言い訳せず、自分の行動と向き合い、責任を引き受けようとしているか。そこが見えなければ、私は許せなかったと思います。

人は完璧ではありません。

経営者も、政治家も、家庭の中のリーダーも、必ず失敗をします。大切なのは、

その後、どう振る舞うかです。

想像するチカラ

政治の世界にいたことで、私は多くの人に出会いました。同じ出来事でも、人によって見え方や受け取り方がまったく違う。その背景には、生まれ育った環境や経験があります。

目の前の出来事だけで判断するのではなく、「なぜ、そうなったのか」「その裏に何があったのか」を考える癖が、自然と身につきました。それは、夫の出来事を受け止めるときにも、大きな助けになりました。

経営者にとっての「許すチカラ」

最後に、経営者の皆さんにお伝えしたいことです。会社経営においても、ミスや裏切りは起こります。そのとき、感情

だけで切り捨てるのは簡単です。しかし、本当のリーダーシップとは、人を信じ直す覚悟を持てるかどうか、だと、私は思います。

もちろん、何でもかんでも許すわけではありません。ただ、「この人は変わるのか」「もう一度任せる価値があるのか」を見極め、その決断の責任を引き受けようか。

許すチカラとは、弱さではありません。人と組織の未来に賭ける、強さです。

この私のお話が、みなさまの経営や人の向き合い方等、少しでも見つけ直すきっかけになれば幸いです。

ご清聴、ありがとうございました。